

連結財務書類(4表)から

杉戸町の財政状況を見る

問合せ 政策財政課 財政担当 内線 272

平成22年度決算から、国の「新地方公会計制度」に基づく財務書類4表を作成しました。「新地方公会計制度」による財務書類は、民間企業のように発生主義の考え方が取入れられています。今までの決算では把握できなかった資産(ストック)や費用(コスト)の情報が加わるほか、水道事業会計や国民健康保険事業会計などの公営事業会計、さらには町と一体となって行政サービスを提供している関係団体を含めた「連結ベース」で作成することにより、行政サービスに関連する杉戸町全体の財政状況を見ることが出来ます。

■ 連結財務書類からわかる町の財政状況

1. 財政面における町の特徴

杉戸町は人口に対する資産規模が大きく、近隣団体と比較して**資産形成が進んでいます**。資産に対する負債の割合は低く、将来世代の負担が比較的小さいといえます。

また、住民一人あたりの行政コストが比較的小さく、**効率的な行政運営**が行なわれているといえます。行政コストを税金等の一般財源で賄っており、**税金等に見合った行政サービスができています**と考えられます。

2. 財政面における町の課題

資産(ストック)面では、杉戸町は資産規模が大きい反面、**多くの公共施設は老朽化が進んでおり**、今後これら施設の維持補修や建替えに多くの支出が見込まれます。

費用(コスト)面では、少子高齢化が進む中、**社会保障関係費が大幅に伸びていく**ことが懸念されます。また、普通会計から国民健康保険事業会計および下水道事業会計への財源補てん的な繰出負担が大きく、**国民健康保険事業や下水道事業の経営改善を進めていく必要があります**。

1 連結貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

連結貸借対照表は、町が保有する資産と、その財源となった負債・純資産を一覧表にしたものです。杉戸町の資産は793億円、負債は228億円、純資産は565億円です。資産に対する負債と純資産の割合は、約3対7です。主な資産は、道路、橋りょう、小・中学校、消防施設、上下水道施設などの「有形固定資産」であり、その簿価は724億円です。そのほかに「基金」や「資金」、「未収金」があります。負債のうち借金である「地方債」は164億円、このうち54億円が下水道事業で起債したものです。

資産	793億 3300万円
公共資産	727億 6400万円
有形固定資産等	723億 5500万円
売却可能資産 *1	4億 900万円
投資等	26億 4800万円
投資および出資金	1200万円
基金等	19億 3000万円
長期延滞債権 *2	9億 2300万円
その他	300万円
回収不能見込額 *3	△ 2億 2000万円
流動資産	39億 2100万円
資金	35億 9500万円
未収金	3億 8300万円
その他	1300万円
回収不能見込額 *3	△ 7000万円

負債・純資産	793億 3300万円
負債	228億 6500万円
地方債(長期+短期)	163億 5700万円
未払金(長期+短期)	24億 1300万円
退職手当等引当金 *4	37億 5200万円
その他	3億 4300万円
純資産	564億 6800万円

連結貸借対照表は、「資産」と「負債・純資産」が必ず等しくなるので、「バランスシート」ともいいます。

杉戸町 マスコットキャラクター **すぎびよん**



■ この表を見るポイント!

杉戸町は全体で793億円の資産を保有し、そのうち565億円はこれまでの世代が支払ってきた資産、228億円はこれから将来にわたって支払うべき債務を表しています。

*1 年度末の時点で、行政サービスへの活用方針が決まっていない資産
*2 収入未済額のうち、前年度以前に調定された金額
*3 債権のうち、回収不能と見込まれる金額
*4 将来の退職手当債務のうち、当年度未までの労務提供に対応する金額

2 連結行政コスト計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

連結行政コスト計算書は、1年間に行なう経常的な行政サービスに、どれくらいのコストがかかったかを表しています。「経常的行政コスト」から「経常収益(税金は収益に含みません)」を差し引いて、税金や補助金収入で賄うべき「純経常行政コスト」を明らかにします。杉戸町の「経常行政コスト」は215億円、「経常収益」は84億円であり、「純経常行政コスト」は131億円です。

経常行政コスト(A)	214億 9600万円
人にかかるコスト	33億 9900万円
物にかかるコスト	57億 5200万円
移転支出的コスト	112億 6600万円
その他のコスト	10億 7900万円
経常収益(B)	83億 6000万円

純経常行政コスト(A-B) 131億 3600万円

4 連結資金収支計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

連結資金収支計算書は、1年間の町の収入(歳入)と支出(歳出)を性質の異なる3つの区分に分けて表示したものです。平成22年度においては、「経常的収支額」32億円、「公共資産整備収支額」△8億円、「投資・財務的収支額」△19億円で、その結果、資金が5億円増加しました。

経常的収支額	32億 100万円
支出合計	192億 4900万円
収入合計	224億 5000万円
公共資産整備収支額	△ 7億 9400万円
支出合計	13億 1700万円
収入合計	5億 2300万円
投資・財務的収支額	△ 19億 4900万円
支出合計	22億 8200万円
収入合計	3億 3300万円

当年度資金増減額 *1 4億 5800万円

*1 経費負担割合変更に伴う差額を含む

期首資金残高 31億 3700万円

期末資金残高 35億 9500万円

3 連結純資産変動計算書

(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

連結純資産変動計算書は、連結行政コスト計算書で計算した「純経常行政コスト」が、どのように税金や補助金収入などの財源で賄われたかを示すものです。

平成22年度においては、期首純資産残高は564億円、期末純資産残高は565億円であり、純資産が2100万円増加しました。131億円の「純経常行政コスト」に対して、これを上回る税金や補助金収入などがあったためです。これは、現世代のコストを現世代の税金等で賄っており、将来世代に引き継ぐ資産が増加したことを意味しています。

期首純資産残高 564億 4700万円

当期変動額	2100万円
純経常行政コスト	△ 131億 3600万円
一般財源	
地方税	55億 300万円
地方交付税	17億 9100万円
その他行政コスト充当財源	10億 6000万円
補助金等受入	48億 3800万円
公共資産除売却損益	△ 1700万円
資産評価替えによる変動額	△ 1900万円
その他	100万円

期末純資産残高 564億 6800万円

杉戸町の連結範囲

1 地方公共団体

(1) 普通会計

(2) 公営事業会計

① 公営企業会計/水道事業、下水道事業、介護サービス事業

② 行政事務特別会計/国民健康保険、老人保健(平成22年度で終了)、介護保険、後期高齢者医療

2 第三セクターなど

(1) 杉戸町土地開発公社

(2) 有限会社アグリパーク ゆめすぎと

(3) 社会福祉法人杉戸町社会福祉協議会

(4) 社団法人杉戸町シルバー人材センター

3 一部事務組合など

(1) 埼玉県市町村総合事務組合

(2) 彩の国さいたま市づくり広域連合

(3) 利根川栗橋流域水防事務組合

(4) 埼玉県後期高齢者医療広域連合

※ 埼玉県議会組合については、組合から財務書類を入手できなかったため連結していません。